

# 1. 早急かつ大幅な総量削減（規制） の必要性

2. 現行のC&Tの評価
3. C&Tと自主行動計画との比較
4. まとめ

# IPCC第4次報告書は早急かつ大幅な削減を要求

- 「今後20～30年の削減努力とそれに向けた投資が、より低い安定化濃度の達成に大きな影響を与える」
- 「排出削減が遅れると、より厳しい影響のリスクが増大する」

IPCC第4次評価報告統合報告書より